

No. 26

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 Tel 03-580-0608

訪欧雑感

文部省生涯学習局長

横瀬庄次

つい先頃、西欧に短い出張をする機会を得ました。その中でほんの僅かながら、ウィーン市とミラノ市で成人教育について垣間見ることができました。これら二市に共通しているのは、かなりタイトな内容の学級を豊富に用意しているなどいずれも成人教育に大変熱心だということでした。例えば、ミラノ市で東洋語と東洋文化に関する夜間学級というのを見せていただきましたが、これは週三回夜六時から九時まで計九時間の授業を三年間学習すれば修了証書を出すというものでした。この修了の水準はイタリア全体で統一がとれていて「イズメオ」(ISMEO)と呼ばれていますが、それほどに国としても市としても力を入れているということだと思えます。集まっていた受講者は、高齢者あり、学生あり、また、男性・女性はほぼ半々というところでしたが、皆さん楽しんで目を輝かせて参加しておりました。

ウィーン市でも、そうした実務的な成人学級がいくつもあり、それらの教

員と受講者とがわが国では考えられない程に充実した連盟組織を作っていて、日本文化の紹介などもこの組織を通じて行えば大きな効果をあげるといことができるといことでした。また例えば、市民プールが早朝から夜まで格安料金で利用できるなど、成人教育施設はかなりの水準にまで整備されているということも聞きました。

しかし、こうした成人教育への熱意と発達の裏側には、高校や大学など中・高等教育の停滞があるようです。ミラノでは、大学への進学は高校卒業資格さえあれば自由だというのに、その進学登録者は高校卒業者の三十パーセント程度で実際に大学を卒業する者の率はそれよりはるかに低いというのです。こうした傾向は程度の差こそあれ西欧にほぼ共通しているといわれます。これが結局、大学教育の充実という方向に行かず上のような継続教育型の学習機会の充実に力を入れるという全体の教育体系になって現われているのではないかと感じたところです。

OECDでは、今秋、「すべての人々に質の高い教育訓練を」をテーマに係関係会議が開かれる予定ですので、その担当のアレキサンダー局長にもお会いしてきたのですが、ここでも、高等教育が十分には普及しておらず産業の構造的変化に必ずしも適応できていないヨーロッパ社会の状況を反映してか、生涯学習を労働戦略の一環として、あるいはせいぜい社会的適合性のため教育として考えている傾向が感じられました。

すぐれた面とその反面という印象は社会全体にも見られるように思います。ウィーンは治安もよく人々も温和とても温かい感じの街ですが、反面、経済の発展に難があり、活力や覇気が余り伝わってこないような気がします。ウィーンフィルには外国人を入れないというように排他的なおいもしないではありません。それに対してミラノは、喧騒で粗放、街を歩いていても緊張感を常に感じますが、商業の中心都市として大いに発展中であると聞きます。

いろいろと忘れがたい印象を受けた短い旅でしたが、成人学級で受講していた老若男女のきらきらした目がとくに心に残りました。わが国の生涯学習の発展にぜひ力を尽くしていかなければとつくづく実感したところです。

第32回全国社会教育研究大会開催要項

平成二年度第三回全国社会教育研究大会にむけて、開催地の北海道においては現在着々と準備を進めています。昨年度の福井県で開催した第三二回全国大会において、新谷北海道会長より北海道大会は参加者に御満足いただけるよう心温かい大会にさせていたたくべく鋭意準備をして、お迎えをさせていただきますと挨拶があり、また、開催地旭川市の藤井社会教育委員長も旭川市は札幌、仙台に次ぐ人口三三三、五〇〇人を有し、周辺には珍しい山の幸、海の幸が豊富で、全国の皆様方を中心からお迎えしたいと着々準備を進めておりますとの歓迎の言葉を述べられました。北海道社教連、教委が一丸となって受入態勢に万全を期している様子がよく分りました。

去る、一月二十日に平成二年度全国地区社会教育研究大会開催県担当者会議が東京霞が関の国立教育会館において開催されました。北は北海道より南は宮崎県までの全国ならびに各地区の開催県の担当者により、それぞれ全国地区(ブロック)の大会開催要項案が発表されて連絡と協議が行われました。細部の点については未定の部分もありますが、輪郭はほぼ固まってきておりますので、発表されました開催要項案

を述べて大会へ参加されますときの参考に供したいと思えます。はじめに全国大会の開催要項を要約します。

◆ 趣旨

全国の社会教育委員をはじめ、社会教育関係職員及び社会教育関係団体の会員などが一堂に会し、各地域における社会教育活動の状況や研究の成果を交流しあい、生涯学習の観点にたつて社会教育の今日的な課題の解決をめざして研究協議を行う。

◆ 研究主題

「学ぶよろこび、生きるよろこびの創造をめざして」―生涯学習推進のネットワークを考える―

◆ 期日・会場

平成2年9月5日(水)・6日(木)・7日(金)の3日間
旭川市民文化会館・トヨーホテル・パレスホテル

◆ 主催

社団法人全国社会教育委員連合会
北海道社会教育委員連絡協議会
北海道教育委員会

◆ 後援

上川管内社会教育委員連絡協議会
旭川市教育委員会

◆ 大会日程

文部省・北海道・旭川市・財団法人全日本社会教育連合会・北海道都市教育委員会連絡協議会・北海道町村教育委員会連絡協議会

〔第一日〕 開会行事 13時～14時

・主催者挨拶・表彰式典

・祝辞 文部大臣・北海道知事

シンポジウム 14時～15時30分

アトラクション 15時30分～17時

〔第二日〕 部会別協議 9時～16時

〔第三日〕 記念講演・大会宣言決議

閉会行事 9時～12時

◆ 部会別名稱と討議の視点

- ① 推進体制◎学習の推進体制とは何か◎地域の特性を生かした推進体制づくりをどうすすめたらよいか
- ② 学習機会◎人々は、どのような学習を求めているか◎行政、大学、民間、企業などとの連携をどうすすめたらよいか
- ③ 指導者◎地域の中で、今、どのような指導者が求められているか◎指導者の養成・活用をどう図ればよいか
- ④ 学習施設◎人々が学びやすい学習施設としてどうあればよいか◎関連施設との連携・協力をどう図ればよいか
- ⑤ 学習情報・学習相談◎学習情報のネットワーク化をどう図ればよいか◎学習意欲を高める相談体制づくりをどうすすめたらよいか
- ⑥ 開かれた学校◎生涯学習時代における学校機能の開放をどうすすめたらよいか◎地域の自然をはじめ教育資源の活用をどう図ればよいか
- ⑦ 同和教育◎人権尊重と差別廃止の啓発活動をどうすすめたらよいか◎地域課題にねざした同和教育を家庭・学校・地域でどうすすめたらよいか
- ⑧ 国際交流◎国際理解をすすめる学習活動はどうか◎地域での身近な国際交流をどうすすめたらよいか
- ⑨ 文化・スポーツ◎郷土意識を高める文化活動をどう広げたらよいか◎地域ぐるみの生涯スポーツをどう進めたらよいか
- ⑩ まちづくり◎地域の自然や文化を生かして活力あるまちづくりをどう進めたらよいか◎地域のふれあいを深める世代間交流・ボランティア活動をどうすすめたらよいか

地区研究大会に参加しよう

全国大会は前述の通り北海道旭川において着々と準備が進められています。一方各地区(ブロック)における研究大会もそれぞれの開催県におきまして鋭意開催にむけて準備が進められております。

各地区大会の参加者も毎年増加の傾向がみられることは主催県のきめ細かな配慮もさることながら、参加者の生涯学習へ向けての意欲のあらわれとも考えられます。

開催県担当者会議において発表されました各地区の開催要項にもとづいて、次に期日、会場、研究主題、分科会構成について述べます。

東北地区研究大会ー宮城県

期日 9月20日(木)～21日(金)
会場 ホテル松島大観荘
研究主題 「生涯学習社会に対応する社会教育のあり方」
分科会の構成
第1分科会 社会教育行政
第2分科会 学習情報提供
第3分科会 学社連携
第4分科会 ボランティア育成

第5分科会 地域の活性化

関東甲信越静地区

研究大会ー茨城県

期日 8月2日(木)～3日(金)
会場 土浦市民会館
研究主題 「生涯学習社会の形成をめざす社会教育委員のあり方」
分科会の構成

- 第1分科会 生涯学習の構想
- 第2分科会 生涯学習の推進
- 第3分科会 家庭教育・青少年教育
- 第4分科会 婦人教育
- 第5分科会 高齢者教育

東海・北陸地区

研究大会ー石川県

期日 9月13日(木)～14日(金)
会場 七尾市和倉温泉観光会館
研究主題 「生涯学習の推進に果たす社会教育委員の役割と使命を考える」
分科会の構成

- 第1分科会 生涯学習

- 第2分科会 成人教育
- 第3分科会 青少年教育
- 第4分科会 家庭教育
- 第5分科会 人権教育
- 第6分科会 生涯スポーツ

近畿地区研究大会ー和歌山県

期日 7月17日(火)～18日(水)
会場 白浜町 ホテル「シーモア」
研究主題 「生涯学習の観点に立った社会教育の今日的課題と社会教育委員の役割について考える」
分科会の構成

- 第1分科会 生涯学習の基盤整備と社会教育委員
- 第2分科会 高齢化社会における社会教育委員
- 第3分科会 国際化時代における社会教育委員
- 第4分科会 情報化時代における社会教育委員
- 第5分科会 同和教育の推進と社会教育委員

中国・四国地区

研究大会ー鳥取県

期日 8月30日(木)～31日(金)
会場 県民ふれあい会館(鳥取市)
研究主題 「生涯学習社会の構築をめざす社会教育のあり方を考える」

- 分科会の構成
- 第1分科会 青少年教育
- 第2分科会 成人教育
- 第3分科会 社会体育
- 第4分科会 同和教育

九州地区研究大会ー宮崎県

期日 10月18日(木)～19日(金)
会場 宮崎県 都城市民会館
研究主題 「心豊かな魅力ある地域社会の創造をめざして」
分科会の構成

- 第1分科会 青少年の健全育成
- 第2分科会 地域づくり
- 第3分科会 教育条件の整備
- 第4分科会 同和教育
- 第5分科会 社会教育委員活動
- 第6分科会 社会教育関係団体

指定都市社会教育委員

連絡協議会ー福岡市

期日 5月17日(木)～18日(金)
会場 福岡リーセントホテル
協議 (1) 各都市より提出された協議議題について
(2) 情報交換
参加 各指定都市社会教育委員 2～3名
各指定都市社会教育主管課長 1～2名

多くの方々のご来旭を！

例年にならない暖冬のため、今後の冬の行事はどうなるのかと心配しながら、第32回全国社会教育研究大会旭川大会の準備を進めております。

社会教育に携わる全国の方々にも一人でも多く参加していただきたく、私達のまち旭川を紹介させていただきます。

私達のまち旭川は、人口三十六万四千人、北海道のほぼ中央に位置し、東に国立公園大雪山連峰を望み、市の中心部を石狩川、牛朱別川、美瑛川、忠別川が合流する四大河川を中心に、大小一七〇本の川が市内を縫うように流れ、そこには七三〇もの橋が架けられ、四季折々に様々な表情を見せてくれる「川のまち旭川」です。

気候は、盆地のため風は弱く、夏は三〇度C、冬はマイナス二〇度Cを越える日もあり、積雪は一メートル程度で四季が鮮やかに変わる大陸性の気候といわれております。

明治二十三年に旭川村が開村されて以来、農業・林業・商業・工業の集散地として発展を続けてまいりましたが、近年では全国初の買物公園の造成、空港の建設、流通団地の造成、旭川大学、東海大学、旭川医大、中小企業大学の誘致、総合体育館、大雪アリーナ、と

きわ市民ホールの建設など、平和な文化産業都市として着実な歩みが続け、今日に至っております。

社会教育の推進につきましては、「旭川の風土に根ざした豊かな地域づくりを目指し、生涯学習を進める社会教育の推進」を総括重点として、旭川市の豊かな自然環境と先人が築きあげた歴史・文化等の特性を生かしながら、豊かな地域づくりを目指しています。

そのために、市民が生涯学習への関心を高めることを第一に、・少年期から高齢期に至る学習内容の体系化・学習活動の拠点となる公民館事業の充実・教育施設の効果的運営と整備・自主学習を援助するコミュニティスクールの充実など、市民が望むことを学び、自己実現を図ることのできる条件整備に努めています。

生涯学習に対する市民の意識も年々高まり、公民館事業に参加する学習者は、年間七十万人を越える現況にありますが、更に発展させるため三つの重点を設定して推進しております。

《その1》生きる喜びと創造性を育てる社会教育活動の推進

人口構成の変化に伴い市民の意識変化は大きく、生活の楽しさや生きがい

を求める学習活動が主体的に行えるような、地域基盤の整備が強く求められるようになりました。

そのために、学ぶことのできる体制の整備と自然や地域の特色を生かした学習機会の充実など、学習条件の整備を重視しています。また、地域諸活動の活性化は、社会参加の拡充になりますので、諸活動の充実を努めています。

《その2》潤いとふれあいに満ちた文化活動の推進

種々の文化活動への参加意欲が高まりが見られ、芸術・文化鑑賞機会の拡充、個性豊かな創作・発表活動の場の充実が求められています。

そのために、優れた芸術鑑賞機会の充実や、市民の創作・発表活動への援助を通じ、文化活動に対する市民間の交流促進を重視しています。また、文化遺産を継承する活動を大切に、文化財の保護、保存と郷土資料の収集に努め、諸活動を通して、郷土を愛する心の醸成に努力しています。

《その3》健康と活力を創造するスポーツ活動の推進

健康・体力づくりや余暇活動に対する関心の高まりと、スポーツ活動を積極的に実践する市民が増加している反面、生活環境の変化や高齢化が進む中で、体力の低下、ストレスに起因する健康障害も数多く見られるようになってきています。

そのために、家庭・学校・地域が一体となって、市民だれもが気軽に参加

することのできるコミュニティスポーツの振興と、健康・体力づくりを進める諸条件の整備、充実に努めています。

「えぞ地」が「北海道」と改められて百二十年、明治二十三年に旭川村として開村された旭川市は、今年、開基一〇〇年の記念すべき年に当たります。

その記念事業の一環として、国際的なイベントにまで成長した第一〇回国際パーサースキー大会に、スウェーデン王国カール一六世グスタフ国王陛下をお迎えするのをはじめ、NHK杯国際フィギュアスケート競技大会、日本の祭り、一〇〇年記念地域フェスティバルなど数々の行事を企画し、「快適で潤いのあるまちづくり」を進めております。

観光のご案内は、後日別紙にてお届けいたしますが、道東、道北、道南観光の拠点として、四季それぞれに美しい顔を持った地にご案内できると考えています。

間もなく北海道は、厳しい冬から解放され、心地よい風と共に春がやってきます。第32回全国社会教育研究大会が開催されます九月は、木の葉の緑、黄、紅が大変鮮やかな北海道で最もよい季節です。

全国の方々のご参加を、心からお待ちしています。

(旭川市教育委員会社会教育部
第32回 全国社会教育研究大会
旭川大会準備事務局)

平成元年度

全国大会・各地区研究大会終る

平成元年八月八日にはじまった中国・四国地区（ブロック）研究大会をトッ

プに、六地区で次々と研究大会が開催されて、最後に、10月18日より3日間福井県において開催された全国大会をもって、平成元年度の全国ならびに各地区研究大会は全て終りました。今、それぞれの大会を振り返ってみますと、共通していることは各会場とも、大会参加者が当初の予定をオーバーして主催にはうれしい悲鳴となり、また、参加者の大会によせる熱意と期待の大きさを読みとることができました。

まず福井県芦原町で開催されました第31回全国社会教育研究大会は、研究主題に「生涯学習社会の形成をめざす社会教育のあり方を考える」を掲げ、北は北海道より南は沖縄県まで、参加者は二四〇〇人に及び近來にない盛況な全国大会となりました。

主催者挨拶をした全国社会教育委員連合の天城会長は、未曾有の気運の高まってきている生涯学習時代において、我々社会教育に携わっておる者として、強い使命感と実績の伴なう自信をもって、新しい時代の社会教育の発展にベストを尽す時が来た」と結びました。また、福井県社会教育委員連絡協議会の青池会長は、今や、生涯学習時代の

真只中にある時、私たち社会教育関係者が真に願っていることは小手先だけの方法や知識でなく、社会の進展に即応した自己を失わない生きがいのある社会であり、その学習社会の実現のためには、具体的でわかりやすい実績活動から自分を見つめ直し自己教育力を高めていくことが大切であると強調されました。

また、福井県教育委員会の蓮川教育長も主催者挨拶を心強く話されました。ひきつづき表彰式典が行われ、永年社会教育委員として活躍し、その功績の顕著な六四名が栄えある受賞者として天城会長より表彰状と記念品が贈られました。

次に祝辞を、文部大臣代理の沖吉文部省生涯学習局社会教育課長と福井県栗田知事と中島福井県議会議長より、さらに歓迎のこたばを坂井郡六町会達川会長からいただきました。

以上で開会行事が終り、基調講演は「生涯学習時代と私たち」の演題で、作家の曾野綾子氏が一時間三〇分にとり熱のこもった内容で感銘を与えました。

第2日は一〇の会科会場にわかれ終日分科会討議を行い、第3日目は「生涯学習社会をきずく先達者」のテーマのもとにシンポジウムを実施してから、大会宣言決議、閉会行事、次回開催地の北海道新谷会長、旭川市の藤井会長よりそれぞれ来年度の北海道大会へ向け鋭意準備を進めていると心強い挨拶がありました。

次に平成元年度全国の六地区（ブロック）で開催されました地区研究大会も、六会場における参加延人数は五、三〇九名に達し前年度をうまわりました。

☆ 北海道ブロック研究大会
期日 8月29日・30日
会場 岩見沢市文化センター
参加者 五二〇名

☆ 東北地区研究大会（秋田県）
期日 8月29日・30日
会場 湯沢文化会館
参加者 五〇〇名

☆ 関東甲信越静地区研究大会（長野県）
期日 9月7日・8日
会場 上山田文化会館
参加者 一一六二名

☆ 近畿地区研究大会（大阪府）
期日 7月6日・7日
会場 大阪府立青少年会館
参加者 九〇〇名

☆ 中国・四国地区研究大会（香川県）
期日 6月8日・9日
会場 高松市立市民会館
参加者 一〇五八名

☆ 九州ブロック研究大会（熊本県）
期日 9月28日・29日
会場 人吉球磨カルチャーパレス
参加者 一一四六名

大会宣言

われわれ全国の社会教育委員をはじめ、広く社会教育行政の担当者及び社会教育諸団体の役員や会員が、ここ福井県の芦原町に集い、「生涯学習社会」の形成をめざす社会教育のあり方を考える」を研究主題として、第31回全国社会教育研究大会を開催した。

急激に移り変わる社会環境の中で、生涯学習実践の時代を迎え、個性重視の原則にのっとった教育の追及、生涯にわたる自己研鑽の努力を大切にする社会、生涯学習社会への移行に向けての整備が求められている。

この時にあたり、本大会は各地域における活動状況や研究成果を交流し、研究討議を深めた。そして、高齢化、国際化、情報化に対処し、未来社会への展望をもつなかで、信頼感や連帯感に満ちた地域社会づくり、青少年の健全育成、成人教育の充実、高齢者教育の推進、ひろく人間の尊厳と平等を推し進めながら、自由で活力のある社会を築くための適切な教育的な対応が必要であることを確認した。

われわれ、生涯学習を推進する立場に居る者として、その任務を深く自覚し、積極的に努力することを誓いあうと共に、本大会の総意を持って、次の事項の早期実現を図る施策の確立を期するものである。

一、心豊かなたくましい青少年の育成を推進し、国民各層の学習基盤の整備をはかること。

一、社会教育の積極的推進を図るため社会教育関係法の整備に向けて努力すること。

一、人権を尊重し、差別のない明るい社会を実現するための教育を積極的に推進すること。

一、生涯学習社会の実現に寄与する社会教育施設設備の拡充及び職員の充実確保を図ること。

一、社会教育の積極的推進をはかるため、財政基盤の確立に努力すること。

右、宣言する。

平成元年十月二十日

第31回全国社会教育研究大会

北

から

南

から

「流水」に寄せて

新谷淳治

小高い丘の上にある我が家からはオホツクの海がよく見える。ただいまは流水が視界にきらめいているが、よくぞ長い旅路を訪ねてくれたものだと思ふし、あの輝きと渡ってくる風には極北の海のいのちがこもっているように思えてならない。だから迎える私も「ご苦労さん、お疲れ様」と、つい勞をねぎらう言葉が口について出る。それは悠久の歴史の中で一貫している大自然が人間に呼びかけている季節の表現に違いない。それにしても自然界の「理」には驚かざるを得ない。人生八十年時代の到来などといわれても、宇宙から見れば、その時の長さは一瞬の光箭にも及ばない。それ故に尚更、一刻一刻を「日々生涯、日々感動」の自覚の内に生きねば授けられたいのちに対しまことに申し訳ない。

私達は日頃、私を語ることの多くして、いかに公に対するつとめについて触れる日々が少ないことか、或いは又、「物から心の時代」と日常用語、飾り言葉として唱えてみても、本来的な「情」を忌み言葉みたいに一隅に押しやられ勝ちな傾向はなしと思ふ。社会の諸処で生涯学習論が盛んでありまことに結構な風潮であるが、基底には必ず人の举措が問われねばならぬのであり、いのちの尊厳についての認識がなければなるまいと思ふ。いのちなるものは、「人のいのち」であり、「大自然のいのち」であり、「人が作り為した「もの」のいのち」であろう。

最近、中央教育審議会の「生涯学習の基盤整備について」という答申書が出された。それを読む内にいろいろと思われることがあるので、いささか古い話であるが、お付き合い願いたい。それは四十一年前の昭和二十四年制定された「社会教育法」のことである。その内容については誌兄先刻ご承知のこと、今更と思われるであろうが、当時岡山県の社会教育課長であった私にとっては、今尚忘れられぬ思いがある。戦後の混乱期の中で、教育基本法から発して、新しく誕生したこの法律は、私にはむしろ新鮮な感じさえた。それは大正十年、はじめて公用語としての社会教育ということばが生まれて以来、一貫して官主導型の教育活動として行われ、更に戦の近づくにつれて思想統制的な性格をもって来たものが、

一転して国民を主体とする考え方となったことであるが、実はそれには古き法律用語にない文章があったことも影響がある。そこには国民が、「自ら實際生活に即する文化的教養を」「あらゆる機会、あらゆる場所を利用して」「高めるといふ、自己学習の原理がうたわれたことである。そして行政のなすべきことは「施設の設定及び運営、集会の開催、資料の作製、頒布」その他の方法によって「環境を醸成する」ことを求めている。自己学習の内容は多様化しているが、資料の作製頒布などは現時点では「学習情報の提供、相談体制の整備」をも含むと考えてよく、その基本は生涯学習においても変わらない。全体的にいえば「基盤整備」は「環境の醸成」になろう。

ここで私は何も現在のことを無理やり過去のことに結びつけようというのではなく、生涯教育、生涯学習ということが盛にいわれる時にも尚、この法律の根本精神は生きていっていることを言いたかっただけである。ただこのことから生涯教育とは社会教育のすりかえではないか、という何とはなしの誤解は避けたいと思ふ。その思い込みの中には社会教育を学校教育の補完的なものと考えたり、相対的な観点から両者を見ることがある。P・P・ラングランの言うように、教育の意味を「博識を獲得することではなく、自分の生活の種々異なった経験を通じて、つねによりいっそう自分自身になると

「生涯教育入門―波多野完治訳」と考えれば、学校教育も生涯教育の一貫性の中にあり、そのための教育課程も考え直されねばなるまいし、社会教育も生涯教育という観点から再考慮も必要となる。一例を挙げれば、高齢化社会を考える時、単純に高齢者のための学習施設というだけでなく、高齢化する社会全般への配慮、高齢化社会における非高齢者の問題など、考えるべきことは多い。そういう時、私にはやはり、四昔前の社会教育法のもつ「いつでもどこでも」という意味が、今でも新鮮であり、好きである。

(岡山県社会教育委員連絡協議会長)

生活の発見

竹下 哲

生涯学習——生涯にわたって学習していくという事は、ぼんやりと人生を過ごしていくのではなく、毎日何かを発見していくということでありましょう。つまり、人生が発見の旅になることであると思います。

藤田湘子の句に、

牛の眼に雪燃えをはる秋の暮
というのがあります。

夕焼け雲の輝きが一瞬牛の眼に映って、やがて消えていくのを発見した驚きを詠んだものです。だれも気づかないことですが、それを発見した作者の

心ときめきまで伝わってくるようです。広島大学の藤原与一先生は、次のようにおっしゃっています。

——理髪店の入口に、八時閉店 九時消灯 また明日おこしくださいと出ています。これを、なにげなく読んで過ごすのも一つの生活でしょう。

「おや？」と思って、これに目を見はり、心を開いてこれを読みとおすと、一つ二つと、うたれるものにつづかれます。「九時消灯」ということも言い添えてあるのは、ちょっとおもしろいではありませんか。

生活の発見ということは、このように私たちの人生を豊かにすることでもあります。それはまた、心の目を開くことでもあります。

四国の詩人平岡英樹さんの詩に、

庭に咲いてくれる／野菊がある／ほかに何が欲しいのだ

というのがありますが、こんな詩に出会うと、何か肅然とした気持ちになります。あれも欲しい、これも欲しいと私たちは走り回っていますが、ふと身の回りを見ると、庭に野菊が咲いていません。実はもうこれだけで十分なのではないでしょうか。

生活の発見と驚きは、つまるところ、人びとの身も心も若々しくさせ、美しくするものでありましょう。

話は飛びますが、昨秋、洛北の高尾を訪れました。紅葉はすでに盛りを過ぎていましたが、それでも炎のように赤く燃えている紅葉もあり、葉をすっ

かり払い落とした裸木もありました。それを見ながら、私は、木々の四季はいつも美しいなあ、と感嘆しました。新緑のみずみずしさ、青葉のさわやかさ、紅葉のあでやかさ、落葉のいさぎよさ、そして、葉を落とした裸木のすがすがしさ——。

永遠のいのちを背景に、これらの木々は千変万化の美しさに輝いています。

社会教育団体振興協議会
会長 有光 次郎

(財)全日本社会教育連合会
理事長 小杉山清

(財)全国社会教育委員連合会
会長 天城 勲

民間社会教育活動等の振興に関する要望

文教部会 殿
文教制度調査会 殿

一、要旨

我が国が、二十一世紀に向けて創造的で活力ある社会を築いていくためには、これからの社会の変化に適切に対応した教育改革の推進が強く求められております。

とりわけ、国民の学習需要の高まりに応え、人々の生涯にわたる学習の成果が適正に評価される生涯学習社会への移行を図ることが極めて重要であります。このような生涯学習社会を実現するために、その中核となる社会教育の一層の振興を図ることが肝要であります。

人間の四季も、本来は、このように美しいものではないでしょうか。
ホイットマンの詩に、
女あり／二人ゆく／若きは うるわし／老いたるは／なおうるわし
というのがあります。「なお、うるわし」と言われるような人生を、精いっぱい生きたいと思います。

(長崎県社会教育委員連絡協議会長)

興を図ることが肝要であります。

特に、民間の活力を生かした社会教育活動の振興と地域における活動の拠点となる社会教育施設の整備を図ることは、生涯学習社会への移行にとって、是非とも必要なことでもあります。

つきましては、次の事項についての格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

二、要望事項

- (1) 民間社会教育活動振興費補助金の充実(民間社会教育関係団体に対する補助) 六〇〇百万円(元年度五五五百万円)
- (2) 社会教育施設の整備充実(生涯学習センター、公民館、図書館、博物館等) 七、九四〇百万円(元年度七、八九五百万円)
- (3) 社会教育指導体制の整備(社会教育専任派遣事業に対する国庫補助の堅持等) 三、二四七百万円(元年度三、二四七百万円)
- (4) 生涯学習推進のための施策としての社会教育事業の実施に必要な経費の拡充(長寿社会に対応した高齢者の学習機会等の拡充)

事務局だより

▼平成元年度第二回総会終る

平成元年度第二回目の総会が福井県で開催された第三十一回全国社会教育研究大会の第一日目に次のように実施されました。

日時 元年十月十八日(水)

午後五時三十分～六時三十分

会場 福井県芦原温泉清風荘

定刻に長田事務局長より開会を宣し、天城会長より挨拶、小杉山専務理事より経過報告があり、青池大会実行委員長から第三十一回全国大会開催にあたり各県の協力に対してお礼の挨拶があった。ひきつづき議長に鍵水速太氏(福岡県)を選出し、議事録署名人として鈴木完一氏(福島県)、岩谷隆存氏(川崎市)を指名して議事に入った。

議事

(1) 第三十二回平成二年度全国大会開催について

北海道新谷淳治会長より平成二年九月五日～七日に旭川市において開催すると説明があり、全員異議なく承認をされた。

(2) 第三十三回平成三年度全国大会開催地区(ブロック)について

長田事務局長より資料にもとづいて説明があり、中国・四国地区(ブロック)において開催することに決定。

▼訃報

永らく石川県社会教育委員連絡協議

会長として尽力されました森茂喜氏と高知県社会教育委員連絡協議会長芝田不二男氏の両氏が昨年逝去されました。ご両人とも本会の運営につきまして積極的に御協力を賜りました。ここに謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

森 茂喜氏(七十九歳)

肺炎 十一・十九

芝田不二男氏(七十一歳)

結腸癌 七・七

▼青森県・兵庫県・鹿児島県退任青森県、兵庫県、鹿児島県の社会教育委員連絡協議会長さんが平成元年それぞれ退任されました。三人の会長さんはいずれも在任中本会の理事として活躍をいただきました。

蝦名逸三氏 青森県会長

田村 亨氏 兵庫県会長

平原哲夫氏 鹿児島県会長

▼県の会長に就任

県社会教育委員連絡協議会会長に左の方が新に就任されました。

東 真人氏 鹿児島県会長

星野幸久氏 長野県会長

▼全国研究大会の開催地区(ブロック)

昭和三十四年第一回全国研究大会を

関東地区(東京)で開催して以来、毎

年一回全国各地において開催されてき

ました。平成二年度の第三十二回全国

研究大会は北海道地区(旭川)におい

て開催されますが、それ以降の開催地

区が本年度第二回総会席上で次のよう

に決定されました。

平成三年度 中国・四国地区

平成四年度 関東甲信越静地区

平成五年度 九州地区

平成六年度 東北地区

平成七年度 近畿地区

▼「生涯学習ソング」発表

世は正に、生涯学習時代を迎えました。たった一度の人生を、充実し、生きがいのあるものにするため、共に手をとり、語り合い、歌いあうこの曲との意図をもって生涯学習ソング(人生賛歌)が発表されてそのカセットテープが事務局へ贈られてきました。

この(人生賛歌)の作詞は山梨県斐

崎市教育委員会社会教育課の社会教育

主事真壁静夫氏で地元の生涯学習推進

に日夜取組んでおられます。

歌詞は明快で分りやすく、歌は明る

く軽快なリズム感に溢れています。そ

の歌詞の一節を紹介いたします、

この世に明日があればこそ

幸せ求め 歩む道

川の流れの 歌声に

乗せて輝く 虹の橋

ああ 人は誰でも 旅を行く

なお、B面には浅川正次氏作詞によ

る(生きがい音頭)(振付つき)が吹

きこまれています。一節を紹介します。

サアサ おいでよ おいでよおいで

ひとつ輪になりゃ 笑顔が揃う

人生百まで まなばにゃ ソンソン

五十の手習い 遅くはないぞよ

学ぶ門には 福きたる ハイハイ

お問い合わせ 菲崎市教委社会教育課

☎〇五五一一二二二二番

ご注文は本会または書店へ——話題の新刊——全日本社会教育連合会発行

☆☆☆生涯学習は枠を超えた☆☆☆

アメリカでベストセラー!!
研修・訓練における成人指導の方法

ウィリアム・A・ドレイブス著
三浦清一郎・末崎ふじみ共訳

A5判158P 定価 1,000円(本体971円) 千260

第1弾 第3期実践社会教育シリーズ
企業と生涯学習

湯川二郎編

A5判116P 定価1,030円(本体1,000円) 千210